

第30回技術士の夕べ講演会レジュメ

(H24. 7. 20 (金) 18:00～20:00開催)

場所 技術士会荻手ビル5階A会議室

参加者 58名(講師を含む)

1 講演

- ・講演者：福田 俊彦氏（東京電力株式会社 原子力・立地本部 原子力品質・安全部長）
- ・講演題目：「福島第一原子力事故の概要とその教訓」

2 講演内容

昨年3月の福島第一原子力発電所の事故に関して、東京電力が独自の事故調査委員会を立ち上げ、本年6月20日に「福島事故調査報告書」として結果を公表した。本講演では、その報告内容を基本として、地震及び津波の概要、事故の概要、放射性物質の放出量、放射線管理の対応、および、事故の教訓と今後の対応まで、幅広い内容について、事故の対応に直接関わった立場からの生の声を含む内容の講演をいただいた。

会場から多くの質問希望者があったが、以下の4名の方からの質問を受け、回答いただいた。

(1) 原発建設に係ったことがある電力OBの方から

- ・二度とこの種の事故は起こしてはならないとの思いから、各電力会社はすでに様々な対策を講じているものと思う。仮に現時点で昨年と同様の地震・津波が来ても事故に至らないか。
(講師) 複数の電源の確保、主蒸気逃し弁のスムーズな操作手順など、対策はとられており、事故に至らないといえる。

(2) 上下水道部門の技術士の方から

- ・東電の関係各位の努力に敬意を表する者。事故の教訓として、1項から3項の対策を示しているが、実施までの具体的な工程を説明してほしい。
(講師) 柏崎の例では、防潮堤の工事を5～7号機は今夏に、1～4号機は来年に施工を予定している。そのほかの電源車などのすぐにやれるものは実施済み。さらに手順書の整備及び事故時を想定した訓練を積んでいく。

(3) 原子力・放射線の技術士の方から

- ・燃料の溶融物が炉心の下部に落下したとの説明があったが、それはいつの時点で起きたか。
(講師) 比較的早い時点、事故の翌日には溶融。一方、落下はその後、時間をかけて進行した。
- ・環境に放出されなかった放射性物質はどこに残っているか。汚染水か燃料か。
(講師) ほとんど全ての放射性物質は燃料デブリ内に留まっている。
- ・高濃度汚染水の放射性物質除去の装置が稼働しているが濃度は下がっているのか。
(講師) 低下はしているが顕著に下がっていない。水温が低いので追加の溶出は少ない。

(4) 原子力・放射線に関わってきた一般参加の方から（クライシスマネジメントを研究中）

- ・吉田所長以下が現場でどういう指揮をとったか、世間にはうまく伝わっていない。今後の教訓として記録に残すべきではないか。
(講師) 今回の事故調査報告書のなかに、時系列的に現場の声を記載している箇所があるので参照頂きたい。

最後に東電関係者のご尽力による福島の復興を祈念して、会場全体から拍手をお送りした。



※技術士会員の方は《Pe-CPD》<http://www.engineer.or.jp/cpd/pe-CPD.html> から講演内容のHP視聴ができます。(8月予定)